

一小的校内研修(中期指導主事訪問 授業研究会)

道徳科の学習

令和5年11月8日(水) 2年3組

<主題名> ともだちをおもうころ【友情・信頼】

<資料名> モムンとヘーテ

<学習について>

この学習で用いた資料は、次のような内容です。

森の小人モムンとヘーテは、栗を見つけ、2人で協力して2つに切って中の実を取り出した。しかし、ヘーテが栗の実を独り占めしたため、モムンは栗の皮を持って帰る。次の日、大雨で森が沼のようになってしまい、モムンは1つの栗の皮に荷物を載せ、もう1つの皮に自分が乗って船のように漕いで大きな木の根元に上がる。同じ場所にヘーテが泳いできて、ヘーテはモムンに謝り一人で逃げるように伝えるが、モムンはヘーテを許し自分の荷物を捨てて一緒に逃げることを決意する。

本時のねらいは次の通りです。

モムンが自分の荷物を捨てて「一緒に逃げよう。」と言った理由を考えることを通して、友達と仲よく助け合うことのよさに気づき、友達の気持ちを考え、よりよい関係を築こうとする実践意欲や態度を育てる。

活動1 正しい行いについてのアンケート結果から、本時のめあてをつかむ。



事前にアンケートを行い、その結果を示しました。友だちがいてよかったことや友だちと仲よくできなかったことを振り返りながら、ケンカをしたときに仲直りすることが難しいと考えている人が多いことが分かりました。

そこから、学習のめあてを考えていきました。

活動2 資料「モムントヘーテ」について話し合う。



タブレット端末で挿絵を見ながら、教師の範読を聴きました。

場面絵を用いて出来事を端的にとらえました。そして、相手が栗を独り占めしたときの主人公の気持ちを考えました。



水難が迫る中、相手のことを「許すかどうか」迷う主人公の気持ちについて考え、友だちと意見を交流しました。

次に、お互いの考えを発表しました。

「許す」と考える児童、「許せない」と考える児童に分かれていました。そう考える理由もそれぞれ違ってきます。いろいろな考え方があったことが分かりました。





結局、主人公は相手のことを許しました。

その心情について考えたことを、ノートに書いていきました。

友だちとの話合いを経たことで、これまでの考えが広がったり深まったりしている児童も見られました。

3 めあてを確かめて学習を振り返り、学んだことをノートに書く。



今日の学習がこれからの生活に大いに役立ってくれることと思います。

